



# ふるえがお



令和7年2月3日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

## 今年度最後の授業公開日は大盛況！

1月28日（火）は今年度最後の授業公開と学級・学年懇談会を実施しました。

1年生は親子活動で給食を食べてから、昼休みにはレクリエーションをし、掃除の様子も見てもらってから算数の授業を、2・3年生は講師の方をお招きしてそれぞれの学年でのメディア学習を、4年生は「10歳のわたし」と題し、自分の得意技を披露し、5年生は自分の力にあったコースを選択しての算数の授業を、6年生は小学校生活最後の授業公開日をソフトバレーボールなど運動あそびで楽しみ、すぎのこ学級は国語の学習で1年間の心に残った思い出を発表し、たけのこ学級は、図書館に暗幕を張り、プラネタリウムのようにして星の観察をしました。

どの学級・学年もたくさんの保護者の方に足を運んでいただき、教室の中も廊下も人であふれている様子でした。学校運営協議会の委員の皆様も全員参観され、保護者にたくさん来ていただいていること、こどもたちが落ち着いて、生き生きと学習に取り組んでいることに感心されていました。

この1年間でこどもたちが大きく成長している姿を実感していただくことはできましたでしょうか。「自分たちで考えて動く姿」「友達と関わりながら行動する姿」「学習に対して前向きな姿」などを見ていただくことができている幸いです。



### お米贈呈式

5年生が、社会科の時間と総合的な学習の時間を使って取り組んだお米の学習について、ひまわり発表会で発表したことを覚えていらっしゃいますか？ その時に、まだ学習は続くことを伝えていました。

学習のまとめのひとつとして、1月29日に古江公民館でこども食堂に取り組んでいらっしゃる古江テラスの4名の皆さんに学校に来ていただき、お米の贈呈式を行いました。

自分たちが4月から取り組んできた学習を通して、カンドーフームの方が心を込めて美味しいお米を作っておられることがわかり、それを多くの方々に食べてもらって伝えたい、お米を通して地域貢献もしたいと考えて、古江テラスへ贈って、使ってもらうことを決めたそうです。学んだことを地域に発信する素晴らしい取組になりました。



重くて持てないから  
台車で運んでいます



1月26日に古江公民館で開催された松江ろう学校高等部の学習成果発表会に足を運びました。PCでアバターを作って手話を学習するソフト開発や絵画やイラストの美術展示では、そのレベルの高さに驚かされました。販売ブースでは、時間前から長い行列ができ、お目当てのものを購入しようと争奪戦が繰り広げられるなど、とてもにぎわっていました。

古江地区あったかスクラムの皆さんと地元の方や授産施設とがコラボされたカフェにも多くの方が来られていましたが、そこには3年生2名がお手伝いとして参加していました。ピンクのエプロンを着て、購入された商品の袋詰めをすることが与えられた仕事のような感じでした。聞くところによると、最初は座ったままで接客したり、集中力が続かなかったりしていたために、スタッフの方に注意を受けたようです。私が行った午後には、お客さんが来たら立って笑顔で接客ができていて、周りの大人の方にほめられていました。こどもの成長力にはびっくりですね。

地域の人に見守られながら成長する場を与えてもらえる古江地区の教育環境に感謝です。

### 次年度に向けての試行

今年度の総括と並行して、学校評価でいただいた意見も踏まえて、よりよい学校運営に向けて、次年度に向けた準備も進めます。

2月から取り組むのは、掃除なしの日を1日から2日に増やし、その内1日はこれまで通りロング昼休みでこどもたちの遊びの時間や活動の時間を保証し、もう1日は下校時刻を20分早めることとしました。

本校は校区が広く、下校してから友達と遊ぶことが難しい環境にあり、そのせいもあって、こども広場には80名以上の児童が登録し、放課後友達と遊ぶのを楽しみにしています。

小さな一歩ですが、自由時間が増えることで、こどもたちがどのように過ごすのかを考え、判断し、行動することで、これから必要な生きる力につなげてほしいと考えています。

古江小学校で5・6年生の時に担任していた教え子がふたばこども園で働いています。保小連携で足を運ぶ機会も多く、年に数回は会い、会話するのが楽しみでもあります。

その子（もうアラフォーの立派な大人ですが、私にとってはいつまでもこどもです。）たちが卒業する時に作った「自分新聞」を開いてみると、バスケットボールが大好きで、中学では全国大会出場を目指して頑張ると書いてありました。（因みに自分新聞はB4サイズで、全て手書きという時代の流れを感じるものです。）

「将来の夢」として書いた職業に就いた子も何人かいます。努力を重ねた結果、自己実現ができたのかと思うと嬉しくなります。プロ野球選手とかオリンピック選手、世界を飛び回るカメラマンなど、大きな夢を抱いていた子はどのようにしているのでしょうか。家を継いで農業をしているだろうと書いた子は、そうはならなかったけど、毎年帰省しては元気な顔を家族に見せているようです。父親の跡を継ぐために、しっかり準備をしている子もいます。バスケットボールの大会会場で会った助産師になった子からは、「古江小で命の授業をさせてください。」と頼まれました。今年度は実現できませんでしたが、何とか力になれるのかと画策中です。登校指導ですれ違うと、車の中から笑顔で会釈をしてくれる子には、朝から元気をもらいます。

担任をした28人の中には、残念ながら小学校卒業以来一度も会えていない子もいます。また、思いがけず出会った時に、戸惑うくらい面影がない子もいれば、そのまま大きくなったと感じる子もいます。現在在籍している子のおじ・おばという子も何人かいて、こどもたちから話を聴くこともあり、そんな時には嬉しくて目尻が下がってしまいます。

今後は、232名のこどもたちの将来の活躍、元気な姿を楽しみに、長生きできるよう鍛え続けます。